

令和6年度 芸術科 「音楽Ⅰ」 シラバス

単位数	2単位	学科・学年・学級	普通科 1年A～G組 選択者
教科書	ON1（音楽之友社）	副教材等	ヴァイオリン（レンタル）

1 学習の到達目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

(1) 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めるとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に着けるようにする。

(2) 個性豊かに音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを深く味わって聴くことができるようにする。

(3) 主体的・協働的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 学習の計画

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
前期	4	オリエンテーション ～音楽と私たち～	身の回りのさまざまな音楽 校歌	○音楽Ⅰの学習内容や意義、評価方法、授業の受け方について理解する。 ○ポピュラー音楽の概要を理解する。	授業への取り組み 〈観察〉
		歌唱表現の工夫①	翼をください 少年時代 小さな空	○楽曲に興味を持ち、楽しさを感じ取り表現できるようにする。 ○ハーモニーの響きを聴き合い、アンサンブルを味わう。	
	5	詩と音楽①	「Caro mio ben」 「Heidenröslein」	○詩と音楽の関わりについて考え表現を工夫する	〈演奏〉
		原語で歌おう ～イタリア歌曲・ドイツ歌曲～		○詩に込められたメッセージを感じ、イメージしながら味わう。 ○ドイツ語の発音について知り、その響きや特徴を捉えて歌唱する。	〈観察〉
		器楽表現の工夫① ～クラシックギター	Happy Birthday To You	○発声法や歌唱法に興味をもち、自分の声を伸ばすための技能を身につける。 ○クラシックギターを通して弦楽器のしくみを知る。	〈演奏〉 〈演奏〉
	6	音楽表現の工夫～ 合唱・アンサンブル①～	Football Canon 野菜の気持ち	○基本的な奏法を身に付ける。 ○楽譜の役割について考える。 ○拍とリズムの関係について知る。	〈観察〉 役割分担と集団への貢献
		音楽の歴史と鑑賞①	「ブランデンブルグ協奏曲第2番」 J. S. バッハ作曲 他	○言葉を生かしたリズムをつくる。 ○バロック時代という概念について理解を深める。 ○バッハなど、他の作曲家の楽曲を聴きバロック音楽を体験する。	〈ワークシート〉
	8	実技テスト		○楽曲の背景や作曲家について知る。	
	9	器楽表現の工夫② ～ヴァイオリンに挑戦する～	きらきら星 カノン 他	○効果的な演奏について考え、表現を工夫する。 ○ヴァイオリンを通して弦楽器のしくみを知る。 ○基本的な奏法を身に付ける。	〈演奏発表〉 〈演奏〉

学期	月	単元名	学習項目	学習内容や学習活動	評価の材料等
後期	10	世界のポピュラーソング	「O sole mio」	○曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるように工夫する。	〈観察〉
			「おお シャンゼリゼ」	○発声法や原語での歌詞唱に興味・関心を持ち、自分の声をさらに伸ばす。	〈発表〉
		歌唱表現の工夫②	「この道」	○詩と音楽の関わりについて考え表現を工夫する	〈演奏〉
		日本の心① ～日本歌曲～		○曲の性格を捉え、それぞれにふさわしい表現になるように工夫する。	〈観察〉
		合唱の楽しみ①	「Seasona of Love」	○ハーモニーの響きを聴き合って歌う。	
		劇と音楽①	他	○アンサンブルを通して、効果的な演奏表現を考える。	
	11	歌唱表現の工夫③		○劇や物語と音楽の関わりを意識して表現を工夫する。	〈演奏〉
		日本の心②	「南部牛追い歌」	○歌詞の内容や楽曲の背景を研究して表現を工夫する。	〈観察〉
	12	楽典②・創作②	音楽と音階	○地域に伝わる音楽に目をむける。	
				○楽曲の美しさやよさを感じ、自ら進んで音楽表現できるようにする。	〈演奏・発表〉
1				○言葉のリズムや抑揚を生かして、日本の音階を使って小曲をつくる。	〈楽譜作成〉
				○音階の性質を知る。	
				○音程について知る。	
		音楽の歴史と鑑賞 ②	クラリネット協奏曲	○音程について知る。	〈ワークシート〉
		楽典②・創作②		○楽曲の美しさやよさを感じとり、音楽の特徴について理解する。	
				○古典派という概念について理解を深める。	
2		アンサンブルの楽しみ②	キーボード合奏	○拍とリズムの関係について知る。	〈演奏〉
		音楽の歴史と鑑賞③	ラヴェル「ボレロ」	○楽曲の美しさやよさを感じ、自ら進んで音楽表現できるようにする。	〈ワークシート〉
				○楽器の表現に親しみ、合奏に挑戦する。	役割分担と集団への貢献
3		合唱の楽しみ②	クラス選択曲	○オーケストラの楽器について知る。	〈発表〉 〈観察〉
		実技テスト		○音楽を形づくっている要素について理解する。	
				○効果的な演奏について考え、表現を工夫する。	

3 評価の観点

知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・曲の表現内容や様々な表現形態による歌唱表現の固有性や多様性について理解している。 ・曲や演奏することと生活や社会との関わりについて理解している。 ・創意工夫や表現上の効果を生かした歌唱や器楽表現をするために必要な技術を身に付けている。
思考・判断・表現	音楽を形づくっている要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受したこととの関わりについて考え、個性豊かに表現を創意工夫している。
主体的に学習に取り組む態度	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

4 評価の方法

知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度の3観点から評価規準に従い、総合的に評価する。

5 担当者からのメッセージ（確かな学力を身につけるためのアドバイス、授業を受けるにあたって守ってほしい事項など）

音楽は、さまざまな表現手段の中でも、互いのコミュニケーションによって形成され、共有できるものです。そして、表現技術の習得や音楽の美しさを感じ取り理解する過程は、知的なものと感覚的なものとをつなげ調和を図ります。

生徒の皆さんには、授業の中での音楽活動を通じて、ものごとの価値を見出し、自分らしさを発見して欲しいと願っています。そのためには積極的な取り組みが大切です。

皆さんが将来、個性豊かに社会で活躍し、豊かな人生を送ることができるよう、音楽の授業のなかでたくさんの音楽経験を積んでください。